３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.458-459

間伐に取り組んでいるForest Nova

【緑のダム、新しい年を迎えて】
代表代行としての思い

昨年６月、石村代表のあとを受けて兄浩が新理事長に就任し新体制でスタートした直後、思いもかけない兄の急死という事態に直面、メンバーの皆様にご心配をおかけしましたこと、申し訳なく思っております

兄は「子孫に負の遺産を残してはならない」という理念に基づき活動を継続発展させて行きたいという抱負を述べておりましたが、これ

からというときに、旅立ってしまいました。取りあえずは、身内の私が代行という形で兄の作業を引き継いでおります。手探り状態・ゼロからのスタートということもあり、今のところ会の運営に支障を来さないということで手一杯といっ

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

た状況ですが、時間が取れるようになれば、管理体制の整備にも取り組んで行くつもりです。

緑のダムの理念に基づき活動を発展させていくことの重要性は言うまでもありませんが、所期の目的を実現するためには組織の継続を図らねばなりません。兄もこのことを大きな課題の一つと捉えていたのではないでしょうか。

世代交代を乗り越え、組織を継続するためには、立ち上げを上回る努力が必要とされるともいわれます。時間はかかっても、知恵を出し合い、次の世代へ、また次の世代へと切れ目なく組織が継続していける体制を作り上げることが出来れば、兄の思いの一部でも叶えられるのではないかと思っております。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】知足の森

今月の活動も前回に引き続き、午前スギヒノキ林での間伐、午後は広葉樹の除伐を行いました。参加者は中学生中心で11名、高校生以上3名でした。初参加だった2名の感想をご紹介します。

今回、私は初めて木を伐採するという活動を体験しました。私は課題研究「実際に取り組む環境問題」ではなかったのですが、偶然誘われてこの活動に参加することができました。日本には、木が生えすぎて手付かずのまま放置された森林があることはなんとなく知っていました。しかし実際にそのような森林を間近で見たのは初めてだと思います。木が多すぎて、地面に日光が当たらないような状態だった森林が、自分達の手で木を一本ずつ切っていくことでだんだん明るくなっていきました。作業が終わった後の森は、する前の森とだいぶ変わっていて、達成感がありました。実際に環境問題を目の当たりにしたことで得られたことがたくさんありました。今回、森で作業したのはおよそ五時間で、人数は十数人でしたが、伐採することのできた木は三、四本ほどでした。機械を使えば早いのだと思いましたが、それでも手付かずのままの森林が日本中にあるならばよりたくさんの人が森林の今の実態を知って改善していかなければならないのだと感じました。こうして私たちのような日本の中学生や高校生などの学生が自然環境の改善に直接関わっていけるのはとても良いことだと思いました。これからもこの活動に参加して、日本の自然環境のことを引き続き学んで実際に動いていきたいと思います。

横山　寧菜（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

初めて、山へ行き環境問題に取り組むということをして大変だったこと、辛かったことがありましたが多くのことを学ぶことができました。一つ目は森林の環境問題について。木が多くあると一本当たりの栄養量が少なくなり立派な木材になることが出来ないし、健康な山をつくっていけないので間伐をしている、などと現在の環境問題や、それを解決するための工夫を知ることができました。また、それに実際に取り組むことで理解が深まりました。二つ目は行動に移す大切さについて。どの木を切ればいいのか自分で考えたり、山では急な斜面や歩きにくいところを一人で乗り越えたりというこれまで経験したことのないことをして自分で考えて行動することが大切だと感じました。また、環境問題は意見するだけでなく行動しないと解決できないように、考えを行動に移していくのが重要だと思いました。教科書などの上でしか学んだことのなかった環境問題を実際に自分で見て解決していくという貴重な経験ができました。今回で終わらせるのではなく、ボランティア活動などを通してこれから環境問題について深く考えていこうと思います。

三科　光葵（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

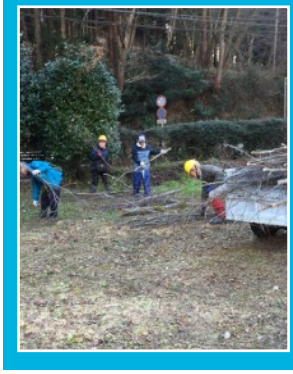
知足の森から

子どもたちとも間伐が進んだところは枝打ち、となってきます

【定例活動報告】
相模湖・嵐山の森

晴天を満喫しての定例活動

２回続けての雨の鬱憤をはらすかのように、どの班も夢中で作業に集中

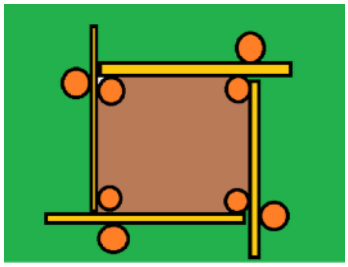


今日も良い天気でこのところ晴天続きで気持ちが良い。初めて参加された方が3名、学芸大中学の女子2名と私の知人で大久保氏、大久保氏は大工仕事がやりたいとの希望があり、丁度、乾燥小屋の屋根葺き（ポリカ）仕事を手伝ってもらった。さすが手際よくスムースに仕事が捗った。今日は無理かと思った仕事を今日中に仕上げることができた。森林整備班は、経路整備を行った。水源の森に至るお寺横の入り口に当たる経路の土砂止めの横木がほぼ欠落していたので約20本ほど補正した。午後から8本補正し土砂が車道に流出することは軽減した。

午後からは原田先生にNOVAの3名が加わり、乾燥小屋の屋根にポリカを貼る作業を行った。最初に屋根にスギの葉や小枝が山のように堆積しているので箒で掃いて落とすのだが、次々に風によってパラパラ落ちてくるので苦労している様だった。前回屋根の端を切り揃えておいたので、楽にポリカの波板をまず敷き詰めるだけで位置は容易に決めることができた。波板を3山づつ重ねて重ねた山の頂上に当たるところに笠つき釘を打って固定する。波板の谷に当たるところで止めると、雨水が流れるため雨漏りが起きやすくなるのがその理由だ。しかも傘つき釘を打つ場所は屋根の垂木に向けて打ち込むのが理想だが、垂木を外れて笠つき釘が打たれているのが素人仕事だが、「まあ何とかなる」という安易な妥協が後々大変なことになら無ければと祈るばかりであった。屋根の下の三画地帯の破風を大久保さんが器用な手つきで作ってくれた。やはり破風があると無いでは見栄えが全然違い立派な家らしくなった。次回大久保氏は破風に絵を書きたいと言われたので、お願いすることにした。実はデザイナーでもあることをすっかり忘れていた。

大分前から木工班が関わってきた乾燥小屋が一応の完成落成をすることが出来ました。辺りは日が落ちて寒くなってきました。皆さんありがとうございました。（報告：小林　照夫）

今月はやっとカブトムシ牧場の修復をすることができた。嵐山のカブトムシ牧場は全部で三か所ある。カブトムシ牧場は杭を打って板を並べただけの簡単なつくりだ。杭が木製であったためか、杭は腐って虫が食った跡がたくさんあった。そのため今回は杭を竹を割ったものを使用した。しかし竹で作った杭は板を支える程度の強度しかなく安定性が悪い。また竹は繊維が強く、釘で板に打ち付けるのが困難であった。今回は木の板を薄いものを使ったため板の重さによって杭が壊れる危険性は低くなったと考えられるが、強度と安定性を上げる改善をするべきだ。



午後は乾燥小屋の屋根に防水のための板を取り付ける作業を手伝った。屋根には大人が五名ほど乗ったが壊れることはなかった。乾燥小屋にある木で板を作ってカブトムシ牧場が作れたらいいと思った。新入生がたくさん入ってくれるように、より良い活動ができるよう頑張っていきたい。（報告：五味　輝史）

新年あけましておめでとうございます。本年も参加者全員が安全で楽しい活動ができる年でありますように。12月17日のお花畑班の参加者は石原さん、岡田さん、瀧澤さん、丸茂。森林整備班の川田晃さんも参加。天気快晴、午前10時作業開始、作業内容：今年最後の活動日は例年決まりの基地までの道路と登り口、集合基地の掃除が中心となりお花畑の作業は一旦中止。作業中に山主の鈴木憲子さんが活動日をすっかり忘れていたのに気づき、ご挨拶に見えた。その時に「敷地内のケヤキ3本の大木を欲しい」と言う外人(見ず知らずの人)が現れ、承諾したはいいけど、大量の伐採木の枝を放置して困っている様子。早速、川田　晃さんに相談して、基地内に運び込む作業を花畑班と助っ人の川田　晃さんで開始。これが膨大な作業となり、軽トラ6回分の積み下ろし作業となり、終礼に何とか間に合った。憲子さんからお礼にと参加者全員にキウイと木に鈴なりの柚子を大量に頂いた。また、石井さんからの地元野菜のおみやげも参加者がいっぱい持ち帰った。今年も無事に活動を終えることができた事を山の神様に感謝して、行きつけのかどやの忘年会で一年を終えた。（報告：丸茂　喬）

地球環境部は今月も間伐の続きを行なっています。現在の区画はかなり作業が進んできたこともあり、桜井先生から一度測量をして、そのなかにある木の胸高直径を計測し、そこから断面積の合計を出して評価すべき、とアドバイスをいただきました。これまで総数と間伐本数（切った木のデータ）はあり、間伐率は出していました。３０％目安と思っておりましたが本数には１本１本の直径は影響しないので次からの課題としたいと思います。作業自体は４本間伐し、今回も「ほとんど」掛からずに無事に倒せました。新しい取り組みとしては前ページ真ん中左の写真にありますように、樹高をメジャーだけでなくレーザー測光器を使い測定しました。ほとんど誤差がないため、しばらく平行して使用し問題なければメジャーでの測定は終了したいと考えています（けっこう大変なので）。今回も初参加者がおりましたが、こちらは若者の森づくり、地球環境部の欄でご紹介したいと思います。（報告：宮村　連理）

桜井尚武の森のコラム

「ツバキとサザンカ」

暮れから2月に掛けてサザンカがあちこちに赤い花を開いています。これから春に向かってツバキが咲き始めます。どちらもツバキ科ですが科の学名はTheaceaeですから、チヤノキ科というべきでしょう。その茶は11月から12月頃に咲いていました。白い花です。ツバキやサザンカにも白い花がありますが、赤いのやピンクが一般的です。ツバキは鳥媒花で鳥は赤色に反応するという記事がありました。メジロやヒヨドリが蜜を吸いに来るそうです。

見た目よく似ているツバキとサザンカの区別点は、花の咲いている今頃に古くなった花弁がばらばらと落ちているのがサザンカ、花が丸ごと落ちるのがツバキです。花弁の付け根が癒合しているかしていないかの違いがあるので一目でわかります。新しい枝が伸びる5月頃には、その新しく伸びた軸がツバキは無毛ですが（図左）サザンカのには1mm程の長さの細い毛がたくさん生えている（図右）ので区別できます。この毛は夏頃にはほぼ落ちてしまいますので、そんな時は冬芽の大きさの割に葉が大きいのがツバキ、小さい=冬芽の大きさが目立つのがサザンカと大胆に区別します。

ツバキ科植物には茶毒蛾が卵を産み付けます。孵化して集団で這い回る幼虫には毒針毛があり、触れたらとても痒くなる毒があるので気を付けましょう。　　桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

麻布大学の学生中心に活動を行なっているForest Nova ☆。その卒業生が１２月３０日、緑のダム石村さん宅に集い、石村ママの美味しい料理と近況報告で盛り上がりました。参加者8名の内、森林に関わる仕事に就いているメンバーは4名です。林業家2名、木材の卸売業1名、木材の加工販売1名。これも緑のダムと一緒に活動していく中で、視野を広げ、つながりを持ってきたからだと思います。

その他メンバーも農業、水産、ＩＴなど様々な分野で仕事をしています。2009年から2015年の卒業メンバーが集まりましたが、驚いたのは緑のダム北相模の活動が20年にも登っていること。Forest Nova ☆も結成から11年経ちましたが、まだまだ負けられないと思いました。緑のダムを支えてきた石村両夫妻の森への思いは強く、久しぶりにお会いしましたがとても若々しく見えました。

森林の現場に密着している人間、木材の加工をコーディネートする人間、木材の相場・流通を熟知している人間。その森林を外から見てきている人間。Forest Nova ☆の卒業生には面白い人材がいると今回改めて感じました。森林に直接関わらなくても活動できるようにしたいと昨年の４月からForest Nova ☆OBOGが集まり、社会人グループとして森林保全活動を展開するためにForesTo Classとして活動をスタートしました。これからも継続は力なりとして少しずつ活動を進めていきたいと思います。

滝澤　康至（Forest Class）

【若者の森づくり】Forest Nova

私がForestNova☆に入ってもうすぐ3年目を迎えます。1年目は新入生として先輩からできるだけ多くのことを吸収しようと、そして代表となった2年目は先輩たちが続けてきたものを守ろうと奮闘してきました。また、第1日曜日の小原の定例活動や大学祭など今までやってこなかった活動にも挑戦した1年でした。

これらの経験を活かし、今年は特に森林整備活動に力を入れていきたいと考えています。そのためにも、林業のプロであるForesTo Classや地球環境部、緑のダムの人たちと一緒に活動することができる小原の定例活動に積極的に参加し、間伐の方法を学んでいきたいと思います。

今年度の新入生は残念ながら定着しなかったので、来年度はいかに新しいメンバーを呼び込むかがForestNova☆の大きな課題です。間伐を中心とした森林整備活動を軸にして、それを前面に押し出すことで新入生が私たちの活動に興味を抱いた後、第1・3日曜の定例活動と山に足を運ぶ機会が増え、自然と定着してくれるのではないかと思います。

そして小原の定例活動で間伐のことを学び、さらに新入生も獲得したら次は嵐山でそれを活かしていきたいと考えています。自分たちだけで間伐に挑戦してみたり、間伐材をチェーンソーで製材し、それをイベントで使ってみたりと、色々なことにつなげていきたいです。

安全にも配慮しながら、森での活動に精進していく有意義な1年にしたいと思います。

服部　七星（Forest Nova）

【若者の森づくり】地球環境部

11月25日に、小金井市のこがねい環境フォーラム2017@環境楽習館『木のめぐみ 森だくさん』にて、活動紹介をしてきました。持ち時間はわずかでしたが、若者が森づくりをする意義や価値についてお話しさせていただきました。方々でお話しさせていただく機会のなかで、必ずテーマのひとつとして、なぜいま森づくりか、ということを入れさせていただいております。環境問題に意識が高まりつつあるいま、実際に環境問題に取り組

むことで感じること、実際に取り組むからこそ得られる充実感や達成感、そのことがさらに活動への参加を促しているのではないか、といういつもの話ではあります。そんななか、12月の嵐山の定例活動に参加してくれた生徒がちょうどそんなことを感想に書いてくれていますのでご紹介します。

今回が初めて森に行くのは初めてで、どんなことをするのか全く分かりませんでした。しかし、実際に行って森を倒してみると、音と振動が力強く、大迫力でとても感動しました。私は始め、木は切って終わりだと思っていましたが、枝を剪定したり、切った枝を一ヶ所にまとめたりと、先のことを考えた作業が多く、すごいなと思いました。私が一番好きだったのは、切った木の枝をさらに切ることでした。単にストレス発散できるという理由だけでなく、切った後の木のにおいや、切れた時、まとめた時の達成感を味わえたからです。森という大自然の中で、このような体験ができて、本当に良かったと思います。

特に、木の伐採では、先を見通す力、枝の剪定では最後まで切り続ける諦めない力が必要です。これを得られるという面でも、とても素晴らしいと思いました。今回、小さい頃に戻ったような気持ちで自然の中に入っていき、作業をして本当に楽しかったです。　また次も行きたいですが、次回はもっとしっかりとした装備で臨みたいと思います。ありがとうございました。

下山　夏央
（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

参加する多くの生徒がこのような実感を持ってくれているとは思いますが、なかなかこう表現してはくれないものです。活動で得たものをどう表現させていくかも環境教育としての活動の視点だと考えています。

さて、今年は昨年の積水ハウスマッチングプログラムのまとめ、さらに継続中の国土緑化推進機構緑の基金の活動（主に知足の森）、パタゴニア環境助成を活用した積み木のイベントも計画しております。また４月からの職場である学芸大学との連携も深めつつ、環境教育としての森づくりを見直していきたいと思います。

今年もご指導よろしくお願いいたします。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。